



江別市立病院

新型マンモグラフィ導入



乳がん検査が、より正確に！

マンモグラフィ
ってなに？

マンモグラフィ装置は乳房専用のレントゲン装置で、乳房を圧迫し、薄く平らにして検査を行います。圧迫には痛みを伴う場合もありますが、小さなしこりや石灰化の発見に有効な装置です。

新型マンモグラフィは
痛み、負担が最小限

新型マンモグラフィ装置は、しなやかな圧迫板の材質と個々の乳房に合わせて最適に圧迫し、痛みを最小限に抑えながら精度の高い診断ができます。さらに、被ばく低減機構を備え、被ばく量を最小限に抑えた撮影が可能です。身体への負担も軽減されます。

3D画像でより
正確な診断が可能に

一般的なマンモグラフィはX線を一方から照射し、乳房を平面的に画像化します

早期の乳がん診断に役立つ
「マンモトーム生検」も導入しました

小さな乳がんを正確
に診断できます！

外科部長 角谷 昌俊



検査する細胞診や針生検という検査が必要です。超音波検査で見える病変は、超音波で見ながら針を刺すことができますが、石灰化などは超音波で見えないため、マンモトーム生検を行います。

検査の方法は皮膚に局所麻酔をした後、4mm程度皮膚を切開し、直径3mm程の針をマンモグラフィで位置を確認しながら、病変に挿し込み、組織を採取します。検査は30分から1時間ほどで、1回に複数の組織を採取でき、確実な診断が可能です。

採取した組織は顕微鏡で観察し、乳がんかどうか、また乳がんであれば、がんのタイプを判定し、治療に役立っています。検査は通院して行えるので、入院の必要がありません。

これまでは市内にマンモトーム生検ができる施設がなく、検査の必要な患者さんを大学病院へ依頼していましたが、これからは当院でもできるようになりました。乳がん検診などで石灰化を指摘された方はぜひご相談ください。

乳がん検診の普及により、マンモグラフィでしか分からないような小さな石灰化だけで発見される乳がんが増えています。今回新たに導入したマンモトーム生検システムは、マンモグラフィで発見した疑わしい石灰化が良性か悪性かを判断する組織検査で、極めて早期の乳がんの診断に役立ちます。

乳がんの診断にはマンモグラフィ、超音波検査、MRIなどが行われますが、最終的には疑わしい部分の細胞や組織を針で採取して顕微鏡で

が、今回導入した装置は、3Dマンモグラフィ（トモシンセシス）を備えています。角度を変えながら25回の撮影を行い、立体的に組織を観察し、より適切な診断が可能になります。

ました。より精密な検査が可能となった市立病院の乳がん検診をご利用ください。

【詳細】

市立病院外来
382-5151

江別市立病院の経営状況

詳細 市立病院管理課 ☎ 382-5151

診療（入院・外来）収益は前年度を上回りましたが、医療以外の国の補助金などが減少し、収益全体では前年度から約1400万円の減収となりました。費用では職員確保や施設修繕などにより給与費や経費は前年度を上回りましたが、医薬品や診療材料費の購入価格削減を進め、費用全体では、前年度から約3300万円削減しました。

平成28年度は抜本的な経営改善策として、診断群分類包括評価方式（DPC制度）や地域包括ケア病棟を導入しました。このほか、さまざまな経営改善に向けた取り組みを進めたことで、診療収益が向上したものの、国の補助削減の影響などもあり、収支計画を達するには至らず、不良債権が発生しました。

この状況を踏まえ新たに策定した「新公立病院改革プラン」に基づき、更なる経営改善への取り組みを進めます。

平成28年度の決算と前年度の比較増減

区分	平成28年度	平成27年度	比較増減
病院事業収益	69億 1,100万円	69億 2,500万円	-1,400万円
病院事業費用	73億 7,400万円	74億 700万円	-3,300万円
単年度純損益	-4億 6,300万円	-4億 8,200万円	1,900万円

平成28年度は、DPC制度や地域包括ケア病棟を導入し、効果的に運用することで病院事業収益が前年度を上回り、また、診療材料の効率的な使用、後発医薬品への切り替えが進んだことで、病院事業費用も前年度から削減できました。しかし、患者数の減少などから収益の伸びは計画までには届かなかったことから、損失を計上することになりました。

区分	平成28年度	平成27年度	比較増減
一般会計繰入金	13億 9,600万円	14億 400万円	-800万円
一般会計長期借入金	なし	7億 5,000万円	-7億 5,000万円
累積欠損金	-82億 7,400万円	-78億 1,100万円	-4億 6,300万円
不良債務残高	2億 6,300万円	なし	2億 6,300万円

市立病院は、地域における基幹的医療機関として、救急患者の受入れなどの採算性の低い医療を担っているため、江別市一般会計から繰入金を受けています。平成28年度の繰入金は前年度とほぼ同額ですが、計画どおりの収益を確保することができなかったため、不良債務が発生し、平成28年度末の累積欠損金が前年度から増加しました。

区分	平成28年度	平成27年度	比較増減	
患者数	入院	9万 369人	9万 1,828人	-1,459人
	外来	17万 725人	17万 5,216人	-4,491人
病床利用率	73.5%	74.4%	-0.9ポイント	

平成28年度は、DPC制度の導入効果による入院期間の短縮などの影響から入院患者数が減少し、これに伴い病床利用率も前年度を下回りました。また、外来患者数も減少となりました。

平成28年度の取り組み

抜本的な経営改善

効果的・効率的な医療を行うために「DPC制度」を、入院治療後の円滑な在宅復帰を進めるために「地域包括ケア病棟」を導入し、医療の質を高めるとともに収益性の改善を図りました。

医療提供体制の整備

病院運営に不可欠となる医療提供体制の整備として、総合内科医を中心に医師の確保に努め、各分野の専門医との連携を強化しました。また、「地域包括ケア病棟」の導入に合わせて、在宅復帰に必要なリハビリスタッフを増員するなど、病院運営に合わせた人材の適正な配置を図りました。

新公立病院改革プラン策定

医療体制の維持とさらなる経営改善に向けた取り組みを推進し、地域の基幹的医療機関として良質な医療を継続して提供することを目的とする改革プランを策定しました。

10/1(日)
OPEN!!

市立病院内に セブンイレブンが開店!

コンビニのオリジナル商品と、病院ならではのニーズを反映した日用品を取り揃えます。また、電気・ガスなど公共料金の支払いやクレジットカードの利用、コンビニ ATM など新たなサービスを提供します。(詳細) 市立病院管理課 ☎ 382-5151

場所

1階エントランス横
(キャッシュコーナー奥)

営業時間

平日 7:30 ~ 21:00
土日祝 8:00 ~ 20:00
※ 10/1は9:00オープン
年中無休

市立病院配置図

